

相撲の発展と国際化

The Development and internationalization of sumo

1 K 0 8 A 0 0 3 - 6 青山貴昭

主査 小野沢弘史先生 副査 太田章先生

<序章>

私は、小学校2年頃から相撲に携わり、15年間相撲を続けている。高校時代は、日本代表に選出され、ブラジル、ロシア遠征など国際大会の経験は、22年間の人生で最高の思い出となっている。国際大会を経験して、世界でも相撲に対する興味や関心は日本人が感じているより大きいと実感することが出来た。しかし、関心があるものの実際に相撲を行っている人は少なく、競技するものではなく、観戦するものであり、相撲の国際化には何が必要なのか疑問を抱いた。そこで、相撲の特徴を理解し、オリンピック競技としてまた、同じ武道として、世界で多くの人気を誇る柔道を主に比較していきたいと考えた次第である。また、日本相撲連盟は、10年前頃から国際化に力を入れ始め、ワールドゲームズという世界大会を開催した。しかし、参加国は毎年変わらず、極一部の国しか出場していない。そこで、アマチュア相撲の国際化の現状と国際化に成功した柔道と比較していきたいと考えた。

<第一章>

第一章では、相撲の歴史と発展について述べた。日本人の国技である相撲の起源から、現在の興行になるまでの時代を追って相撲の原点を論じた。日本古来の競技である相撲が、どのように生まれ、どのように発展したか、本来の目的は何であるのか記した。競技として発展するまでの歴史は、古く、発展を繰り返していった事に気付いた。また、世界では多くの相撲が行われており、どれも異なる性質を持っていた。相撲という言葉では分類できず、ルールや目的なども異なっていた。そこで、日本の相撲と世界の相撲を比較して、世界ではどのような相撲が行われ、何を目的に行われるか、世界の相撲を調べそれぞれのルールと競技内容を記した。

<第二章>

第二章では、相撲が国際化を行う上で、オリンピックを世界大会の基準としてアマチュアリズムにつ

いて論じた。アマチュア規定やオリンピック憲章などを用いて、アマチュアリズムを考察し、アマチュアリズムの本質やあり方を述べた。また、スポーツの起源を調べ、スポーツのあり方と元来のスポーツから現在のスポーツに至るまでの発展を調べ、プロスポーツとアマチュアスポーツの現状についても論じた。また、スポーツ国際化を行ううえで、どのような要素が必要であるか、オリンピックの発祥の地であるギリシャの、参加資格をもとに調べ考察した。

<第三章>

第三章では、アマチュア相撲と柔道の国際化について論じた。相撲、柔道共に日本を代表する武道の一つであるが、その二つの国際化には大きな差がある。柔道は、オリンピック競技としての地位を確立しているが、相撲の国際化は困難を極めている。そこで、柔道の国際化の歴史を調べ、相撲の国際化の現状と照らし合わせ、相撲の国際化について考察した。

<終章>

終章では、なぜ柔道と相撲の国際化には差があるのか、第一章の「相撲の歴史と発展」、第二章の「アマチュアリズムと国際競技」、第三章の「アマチュア相撲の国際化」を踏まえてまとめた。その中で、相撲が日本の「国技」ゆえに国際化が難しい現状となっている。アマチュア相撲が国際化を行うために何が必要なのか論じた。

私が、愛する相撲であるからこそ、国際化を実現し、より多くの人に素晴らしさを知ってもらうために、現在のアマチュア相撲に対して、私の一考察を述べた。また、相撲の今後の普及と未知の可能性を信じて、相撲の進むべき道を記した。相撲は、古くから続く歴史と伝統を持つ国技であり、国際化に向けての改善点はまだまだあるが、国際化は遠い未来ではない。これからの相撲の発展からは目が離せない。